

ここから始めよう！

M

I

Y

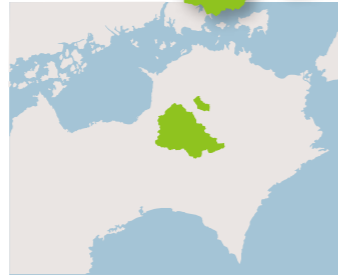
O

S

H

I

あふれる笑顔と ^{あした} 未来のために



三好市は、四国一広大な面積を持ち、四国のほぼ中央に位置しています。豊かな自然・名勝を有し、長い歴史の中で個性的な文化や伝統を育んできました。ここでしかできない体験がたくさんできると思いますが、何よりの誇りは、しあわせな市民がたくさんおられることです。私も三好市で生まれたのではないかとと言われる天下人、三好長慶が理想とした「理世安民の心で、まちづくりに取り組んでいます。ぜひ三好市を訪れて、その多彩な魅力にふれ、しあわせのおすそ分けを受け取ってください。



三好市長
高井 美穂
Mayor
Miho Takai

ご挨拶
しあわせいっぱい三好市

桜に染まる池田町



三好市の
美しい風景を
動画で
ご紹介します。

目次

三好への招待状	
三好のネイチャーリズム	2
人が輝く三好市 元気な仲間たちが集合	6
交流の郷、三好を試してみよう	10
妖怪伝説の里、山城	14
三好の未来へ	
三好ジオパーク構想	16
親子でリラックスできるまち	20
三好で働く	24
千年のあゆみ 三好市の歴史	28
三好市のお祭り・イベント	30
三好市誕生後のあゆみ	32
定住と交流を育むまち	34
豊かで生き生き、安心・安全なまち	36
地域を活かし魅力ある煌めくまち	38
住民参画を基本とした協業のまち	40
議会・行政 三好市の概要	42
私の好きな 三好地図	44



山、清流、渓谷を楽しもう

〜三好のネイチャーリズム〜

地球の地殻変動によって誕生した大地に位置する三好市は、今も太古の姿そのままにダイナミックな自然の姿を伝えており、さまざまな自然の中でのアクティビティが楽しめます。



剣山

紀州や瀬戸内海、足摺岬までも見渡せる見事な眺望を誇り、神秘的な雲海でも知られます。登山道が整備されており、登山リフトも運行しているので、初心者でも気軽に楽しめます。

三好市の山や渓谷は、四季折々に美しい表情を見せてくれます。北には阿讃山脈、南には剣山系で囲まれており、標高1955メートルの剣山は、四国第二の高峰で、古くから山岳信仰の霊山として崇められてきました。山容の美しさが西日本屈指といわれる三嶺もトレッキングに最適で、剣山との縦走に挑戦する人もいます。剣山の山麓には祖谷渓谷が広がり、そこにかかる祖谷のかずら橋は、重さ約5トンにもなるシラクチカズラで作られており、日本三奇橋の一つに数えられています。



三嶺

剣山に次ぐ徳島県第2の高峰。登山道は四国で一番自然が残っており、四季折々の花々が楽しめる評判です。



祖谷のかずら橋

長さ45メートル、幅2メートル、水面上14メートルで、国指定重要有形民俗文化財。地元住民による「かずら橋保勝会」が3年に一度、かずらの部分の架け替えを伝統技術を踏襲して行っています。



井川スキー場 腕山

昭和2年(1927)に開設した歴史のあるスキー場。初級から上級まで楽しめる4コースがあり、専用のチビッコゲレンデも設置されています。

三好のネイチャーリズム

二つの表情を持つ清流、吉野川



三好のネイチャーリズム



三好市を流れる吉野川は、二つの表情を持っています。上流には、大歩危峡や小歩危峡に代表されるように、大小の岩石が作りだした瀬が織りなす世界トップクラスの激流があります。ラフティングやカヤックなどに適しており、平成29年(2017)にはラフティングの世界選手権が開催されました。一方、下流では讃岐山脈の隆起によって川の向きが大きく変わったため、鏡のような水面のイケダ湖ができました。ウエイクボードやスタンドアップパドル(SUP)などに適しており、平成30年(2018)にはウエイクボードの世界選手権が開催されました。同じ市の中に二つの異なる水面があるため、三好市はウォータースポーツの聖地とされ、全国や世界からアスリートが訪れます。

ウォータースポーツの力で三好市を元気に

イケダ湖は両側に山があり、風の影響を受けることがなく、船も通らないため、ウエイクボードにとって世界クラスの優れた環境です。私は29歳でウエイクボードに出会い、人生をかけて普及に取り組んできました。この素晴らしい環境にひかれて三好市に移住し、ウエイクボードの世界選手権を実現。プロ・アマ合わせて34カ国147人が出場し、来場者数約1万1000人と成功を取ることができました。



(一社)地球のテーマパーク事務局長 薄田 克彦さん

のことを二発火花に終わらせず、川に親しむ文化をつくり、水資源を活用したレジャーやビジネスの開発に取り組んで、三好市を元気にしていきたいと思っています。

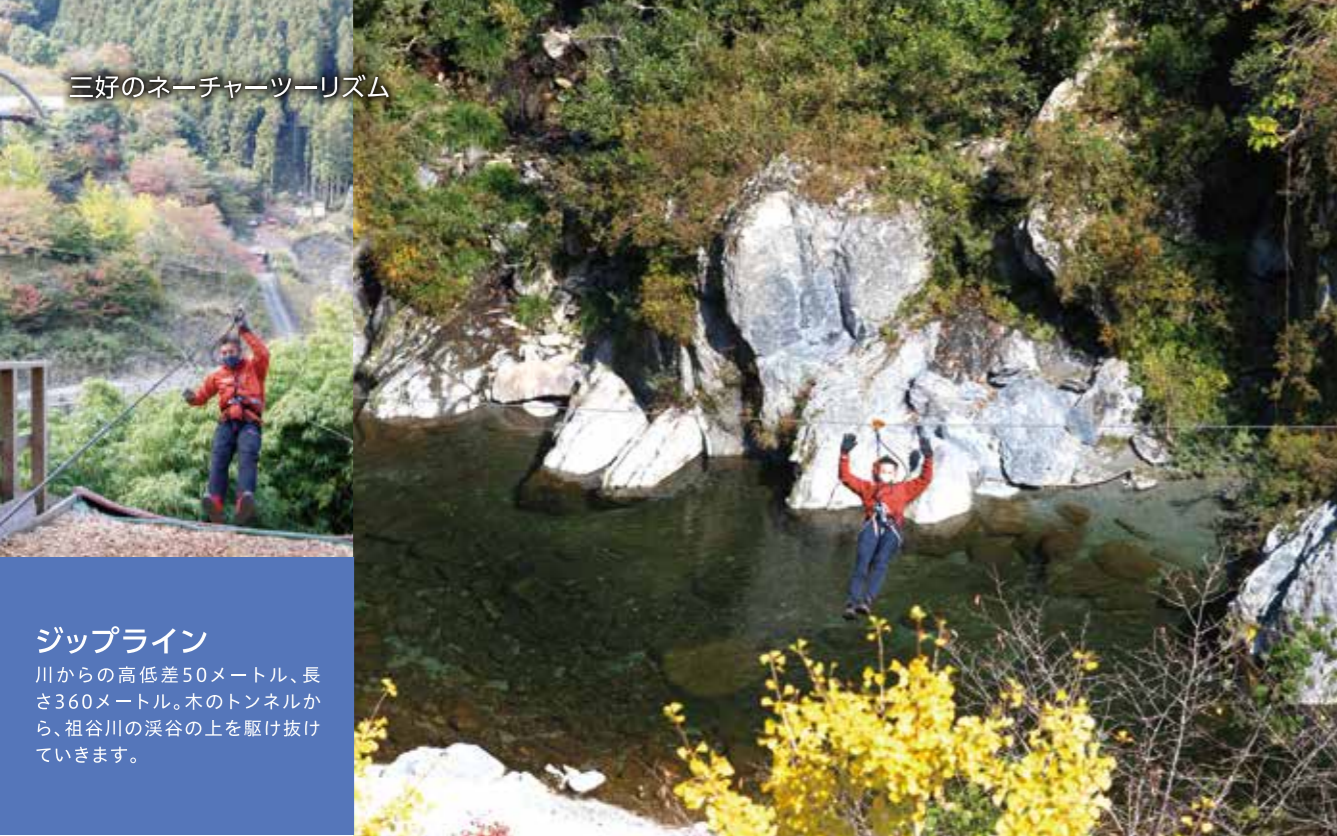
ウエイクボード小中学生チーム「イケダコイレブン」

未来のウエイクボード世界チャンピオンを育てようと、薄田さんらの発案により、平成30年に三好市の小中学生で結成。チーム名は、春の甲子園にて11人で準優勝を果たした池田高校野球部「さわやかイレブン」にちなんで付けられました。世界選手権には10人がエントリーし、男女2人が3位に入賞しました。令和3年(2021)には、東京オリンピック聖火リレーの徳島県での第一走者をメンバーの千葉結那さんが勤めています。現在は11人のメン



イケダコイレブンメンバーの松浦 航大君(左)、三木 凜太郎君(右)

バーで、イケダ湖をホームグラウンドに練習を重ねています。



ジップライン

川からの高低差50メートル、長さ360メートル。木のトンネルから、祖谷川の渓谷の上を駆け抜けていきます。



アドベンチャーコース

木の上に設けられたプラットフォームを目指して、森に張り巡らされたロープを辿って、ターザンになった気分が歩いていきます。



祖谷溪で冒険を楽しもう

フォレストアドベンチャー・祖谷

フォレストアドベンチャーは、1997年にフランスで誕生した自然共生型アウトドアパークです。森をそのままの形で使うため、環境負荷を最低限に抑えていること、ヨーロッパの安全基準と蓄積された安全管理のノウハウがあることから世界中に広がりました。「フォレストアドベンチャー・祖谷」は四国初のフォレストアドベンチャーで、過疎地域のベンチャー事業としても注目されています。



インストラクター
岡崎 満美さん

ラフティングが好きで吉野川に通っているうちに、兵庫県から三好市に移住してきました。都会にはない自然があり、楽しい人も多くて暮らしやすいです。フォレストアドベンチャー・祖谷では、森の中でしかできない非日常が体験できるので、ぜひ遊びに来てください。

スポーツにヒーリングに、心も体も解放できるイケダ湖



三好市で行われる「ラフティング世界選手権」に向け、中高生により結成されました。世界選手権にはユース女子として初出場し、ゲートを順番にくり抜けてタイムを競う「スラローム」で3位に入賞しました。2019年の日本選手権でも好成績を収め、中国で行われる世界大会に出場する予定でしたが、新型コロナウイルスの流行により中止になってしまいました。現在は大学生2人がメンバード、リバーフェイスの元主将、阿部雅代さんの指導のもと、大歩危、小歩危や堂床、イケ



みんなで力を合わせて、一人ではできないことを体験するのがラフティングの魅力です。他の川と比べても、吉野川はラフティングに一番適していると思います。大きさと水量があり、水がきれいなので魚が見えるのも良いですね。2人だと寂しいので、メンバーを募集しています。(齊藤さん・高井さん)

ダ湖などで練習を続け、社会人選手らと一緒に活動を行っています。



メンバーの齊藤成美さん(左)、高井紫乃さん(右)



SUPヨガとは、スタンドアップパドルのボードに乗り、水に浮かんでヨガを行うことです。ヨガはリラクゼーションの要素が強いのですが、SUPヨガにはスポーツの要素が加わり、ヨガの倍程度体幹を使います。SUPヨガはボードに重りをつけ、流れないようにして行います。イケダ湖はとてもいい環境で、いろんな世代の方々に喜んでいただいております。男性のリピーターも多いです。緩やかな流れの中、自分の体の揺れだけを感じながら、ごろんと寝転がっている、とてもリラックスした気分になれる



す。心も体も開放できる場所です。ここでしか味わえない情景を見ながら、SUPヨガで新たな自分を発見し、イケダ湖に来ていただけたらと思います。



SUPヨガインストラクター
大北 侑希さん

SUPヨガ

三好ラフティングチーム「TRAKT(トラクト)」

西祖谷神代踊保存会

ユネスコ無形文化遺産に登録



左から梶平みさ子さん、藤堂正子さん、小野寺武夫さん(会長)、西谷佳一さん。

西祖谷神代踊保存会

仁和4年(888)、菅原道真が雨乞いのために舞ったことが始まりという伝承があり、古い形態の踊りを伝えているとして、国の重要無形文化財に指定されています。令和4年(2022)には、ユネスコの無形文化遺産に登録されました。毎年旧暦6月25日に善徳天満宮の夏祭りで奉納されます。



昔は「太鼓踊り」と呼ばれ、大正時代に皇太子(昭和天皇)が行啓された折に、「神代踊り」と命名されました。

ユネスコの無形文化遺産に日本の「風流踊」が登録され、西祖谷の神代踊もその対象となりました。太鼓の調子と小唄に合わせて、男性は跳ねるように、花笠をかぶった女性は優雅に、円をつくって踊ります。過疎化により後継者が不足しているため、近年では

榎生いろう小学校の児童たちも学校で練習をし、踊りの輪に加わっています。「本当に地元ならではの踊りなので、継承は地域コミュニティに必要なことです」。無形文化遺産登録の重みを感じつつ、千数百年の伝統を未来へと伝えていきます。

ザ・リバーフェイス

吉野川を拠点に世界へ挑戦する



左からキャプテンの板華子さん、浅井裕美さん、山下美岬さん、安永有里子さん。

ザ・リバーフェイス

平成19年(2007)に、阿部雅代さんや浅井裕美さんらによって結成されました。平成22年(2010)のオランダ大会、同29年(2017)の吉野川大会と2度世界選手権で優勝。地元開催の吉野川大会では、大きな声援を受けました。インドネシア、ブラジル、ニュージーランドなど、世界の川に挑戦し、令和4年のボスニアヘルツェゴビナ大会でも3位と健闘しました。



令和4年にボスニアヘルツェゴビナで行われたラフティング世界選手権で3位に入賞し、市役所を表敬訪問しました。



ボスニアヘルツェゴビナにて。



吉野川の激流はラフティングに最適です。

吉野川を拠点に活動する「ザ・リバーフェイス」は、過去2回世界選手権で優勝した日本を代表する女子ラフティングチームです。現在のメンバーは4人。全員県外の出身ですが、激流もおだやかな流れもあり、二年中練習が可能な環境にひかれて三好市にやって来

ました。全員仕事を持っているため、毎朝早朝5時半から7時半まで練習に励んでいます。「大歩危小歩危のような激しい流れを、仲間とともに乗り越えていく時の一体感は最高です。常に世界一を目指すチームという誇りを胸に挑戦を続けていきます。



前列左から馬淵裕貴美さん、川上良枝さん、後列左から西田初美さん、水原ひとみさん、リーダーの小谷真澄さん、中山千鶴さん



やましろAKB

いくつになってもアイドルは楽しい

やましろAKB

平成27年(2015)年に三好市の芸能大会でデビューし、いきなり1400人の大喝采を受けます。コロナ禍前には年間20以上のイベントに参加。総合異種パフォーマンス選手権「やまもバトル選手権」(小松島市)では、作曲家の住友紀人氏に熱演を絶賛されました。



毎週火曜日に山城公民館で練習しています。メンバーも募集中。



和気あいあいな中でも、厳しい指導を忘れない監督の森岡照代さん。



パフォーマンスやコスプレで大活躍。



AKBは「明るく「キレイな」ババア」の意味。山城町で活躍する40代から60代の女性によるアイドルグループです。今までダンスの経験がなかったアイドル好きのメンバーが猛練習。レトロなナンバーに合わせて踊るパフォーマンスが評判を呼び、三好市内はもち

ろん、徳島県内のイベントに引っぱりだこ。オリジナル曲「たぬきサンバ」もできました。監督の指導は厳しいですが、お客様の拍手が何よりのやりがい。「明るく、キレイでなくならたらやめるけど、当分イケそう」。家族や地域の応援もあり、まだまだ頑張ります。

三好長慶武者行列まつり実行委員会

理世安民を旗印に地域に活力を



左から篠原秋英さん(前会長)、鈴木茂幹さん(会長)、梶英男さん(会計)。現在役員は約50名。

三好長慶武者行列まつり実行委員会

平成23年(2011)年にスタート。三好長慶生誕500年となる令和4年(2022)年に第10回を迎えました。香川、高知、大阪、岡山等、全国から武者や鉄砲隊が参加する大掛かりなイベントとなり、三野体育館から長慶生誕の地碑までパレードをします。



令和4年は高井市長が長慶役を任せました。



全国から三好氏ゆかりの武者たちが集まります。



備州岡山城鉄砲隊による演武。



生誕500年を記念して建てられた生誕の地碑。

織田信長より20年近く前に京都を納めた、最初の天下人「三好長慶は、三野町の芝生城で生まれたのではないかと、も言われています。「長慶は文武両道に秀でており、理想とした」理世安民「は民主主義の基礎だと言えるでしょう」。その功績を称え、地域に元気を与えようと始

まったのが武者行列まつりです。長慶の活躍は四国、近畿地方全域に及んだため、ゆかりの土地がたくさんあり、全国から武者たちが参加して、毎年勇壮なパレードを繰り広げます。NHK大河ドラマ化を目標に、これからも全国の三好氏ゆかりの地域が、力を合わせていきます。



東祖谷には、釣井という集落にも築300年の茅葺民家を改装した宿泊棟があります。これは、「桃源郷祖谷の山里」の理事長でもある東京文化研究家のアレックス・カー氏が1970年代に祖谷の風景に魅せられて購入したもので、カー氏がフルートを吹くことから「笛の家」という意味で「簾庵」と名付けられました。内部には建造時からの床板が残る、黒く光る独特な空間で、海外からも多くの宿泊客が訪れています。

江戸中期に建てられた茅葺民家

簾庵

ちいおり



三好市には、古き良き日本の面影を伝え、土地に根差した暮らしが定見できる宿泊施設があります。

交流の郷、三好を試してみよう

茅葺民家ステイ

道の駅 大歩危

大歩危峠を見下ろす国道32号線沿いにある道の駅。三好市の特産品を販売するほか、山城町に伝わる妖怪やタヌキの伝説、徳島県の天然記念物に指定されている礫質(れきしつ)片岩(へんがん)や世界の貴石・原石などを展示する「妖怪屋敷と石の博物館」があります。



「道の駅 大歩危」運営会社
株式会社山城しんこう 代表取締役社長

永本 和明さん

大歩危峠の玄関口としてさまざまな情報を発信しています。私は熊本県出身で、東京に住んでいた頃、キャンプを楽しみに三好市を訪れ、自然に魅かれて移住してきました。三好市の自然の魅力や先人が残してくれたものを掘り起こして、継承していきたいです。



Look!



「桃源郷 祖谷の山里」個性あふれる宿泊棟が連なる
落合集落は、東祖谷のほぼ中央に位置し、集落内の高低差は約390mにも及びます。江戸中期から昭和初期に建てられた民家が急傾斜地にへばりつくようにして点在する独特な景観は、平成17年(2005)に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。しかし、過疎に伴う空き家の増加が問題となり、課題解決

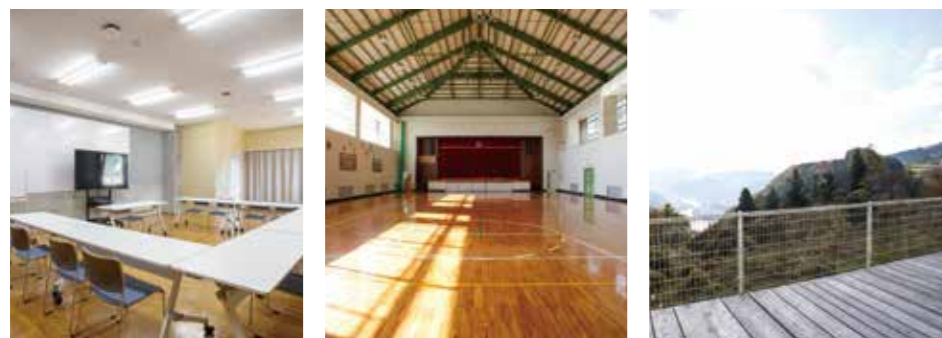


悠居

集落の脇道から森の奥へ進むとひっそり佇む、隠れ屋と呼ぶにふさわしい宿泊棟。

の取り組みとして、「桃源郷祖谷の山里」プロジェクトがスタート。8軒の茅葺き屋根の民家を地域の伝統工法で改修し、平成24年(2012)にそれぞれの個性を持った1棟貸し切りの宿泊棟として再生させました。歴史と伝統の趣に現代の快適性をプラスした、新しいスタイルの宿泊施設として注目されています。

「桃源郷 祖谷の山里」個性あふれる宿泊棟が連なる



吉野川が見下ろせる廃校(旧・馬場小学校)をリノベーションした、一日一組だけの貸し切り宿泊施設。展望テラス、デッキや体育館、各種研修室、サテライトラボなどを備えており、

企業研修やワーケーション、ゼミ合宿、スポーツや音楽などの活動に利用できます。

雲海を見下ろす天空の学校

ウマバスクールコテージ

廃校リノベーション

廃校や昔の商家をリノベーションした、三好市のさまざまな魅力ができる複合施設を紹介いたします。

シモノロパーマネント

異次元の体験ができる山の中のサウナ



「大自然の中で心も体も解毒する」をコンセプトに、香川県との県境に位置する山の中の廃校(旧・下野呂内小学校)をリノベーションして造られた複合施設です。スウェーデン式の「谷のサウナ」や、森の幼稚園「花咲み」などがあり、キャンプ、焚火、宿泊など、さまざまな楽しみ方ができます。



ハレとケ珈琲

学校の懐かしい面影を残すカフェ



祖谷の入り口にある廃校(旧・出合小学校)を、学校の懐かしい姿を残しつつ改装した自家焙煎のカフェ。電気式のsteamサウナもあり、ホステルとしても利用できます。イベント等に使えるウッドデッキもあります。ハレとケデザイン舎が運営しています。



大自然から新しい価値を創造する

三好市に来たきっかけは、廃校を活用するアイデアを募集しているというところからです。その頃、息子が喘息の症状があったのですが、こちらに来たら症状が治まり、移住することを決めました。三好市の一番の宝は自然だと思っています。今まで2つの廃校のリノベーションを手掛けてきましたが、大自然から新たな価値を見出し、遊び方が分からないような都会の人たちに提案できるような場所づくりを心がけています。山の中でサウナに入っているなんて、普段は味わえない異次元の体験でしょう。自然を堪能するアクティビティとして、サウナの認知度を高めていきたいと思っています。



ハレとケデザイン舎
シモノロパーマネント代表
植本 修子さん

地域交流拠点施設 真鍋屋

マチの魅力伝える交流拠点

池田町マチの豪商真鍋家の築100年を超える商家を改築した地域交流拠点施設。飲食の提供や、仕事・交流の場として使用できるスペース、イベントやマルシェなどに使える中庭などがあります。移住相談窓口もあり、三好市で新しい生活を始めるためのお試しオフィスやお試し住居も用意しています。





「道の駅大歩危」にある妖怪のワンダーランド。展示品は妖怪伝説の残る地域の70～80歳代の方々が手作りしたもの。絵巻物「山城大歩危妖怪村見聞録」も展示されています。



エンコ



龍神



のびあがり



マド



ヤマジチ



弁財天

国道32号線から藤川谷沿いに、住民手づくりの趣ある妖怪モニュメントが置かれています。妖怪ロードほか、妖怪伝説の地を巡る「大歩危妖怪ロゲイニング」も開催されています。

妖怪屋敷



妖怪まつり

毎年11月下旬に旧上名小学校周辺で開催され、妖怪パレードのほか、山城の特産品のバザーや妖怪バンドの演奏など趣向を凝らした内容です。

母が最期の妖怪目撃者

私は長いこと関西にいたのですが、定年で帰って来て山城町の妖怪の魅力を再発見し、妖怪村のお手伝いをするようになりました。実は母が子どもの頃、妖怪「山じち」に出会っているのです。夏休みに父親の手伝いに山奥の炭焼き小屋に行ったら、履物も履かずに蓑を羽織っただけの男が降りてきて、じーっと立っているんで、水をかけたら、後ずさりをして山に帰っていったというんです。それが、今のところ山城町での最後の妖怪目撃談なのです。

妖怪村村長
たかし
岡瀬 亨集さん



どこか懐かしさと暖かさを感じる妖怪たち

山城町は急峻な地形で、国内有数の地すべり地帯です。災害や事故が多く、親たちは困炉裏端で怖い妖怪話をしながら、危険な場所に近づいたり自然を荒らしたりすると恐ろしいことが起こると、子どもたちに教えてきました。また、間違いを犯してしまった人を妖怪の仕業ということにして許し、コミュニティを守ってきました。山城町の妖怪話は、厳しい自然と共生していくための知恵が詰まった生活必需品であり、命を守る親心から生まれた宝物だと言えるのです。

妖怪村議会議員
下岡 昭一さん



大歩危峠、小歩危峠で知られる三好市山城町は、四国の国さかいを守る勇敢な山岳武士の里であるとともに、全国有数の妖怪密度を誇る伝説の里でもあります。藤川谷の環境美化に取り組みボランティア団体「藤川谷の会」が、平成10（1998）年頃から、地元のお年寄りなどへの聞き取りを始めると、町内60数か所に30数種の妖怪

伝説が残されていることが分かりました。調査の過程で、全国に知られる児啼爺（こなきじい）伝説発祥の地が山城町だと分かり、平成13年（2001）年に藤川谷に全国から寄付を募って児啼爺の像を建立。同年11月から、「妖怪まつり」もスタートしました。

平成20年（2008）には、妖怪を題材とした地域活性化を進めていくため、「四国の秘境 山城・大歩危 妖怪村」が発足。同年5月には、山城町が鳥取県境港市に次ぐ第2号の怪遺産に認定されました。平成29年（2017）に、侯宏氏、小松和彦氏や京極夏彦氏らを迎えて「怪フォーラム2017 in 徳島」が旧上名小学校で開催され、全国からたくさんの妖怪マニアが集いました。

妖怪伝説は厳しい自然の中で生きる生活の知恵。山城町の歴史や風土、文化を伝えるものとして守り伝えられています。

妖怪伝説の里、山城

（世界妖怪協会怪遺産第2号に認定）

三好ジオパーク構想

動く大地が作った
空へ続く集落と吉野川の流れ

三好市の特徴ある文化や資源は、過去の地殻変動からつくられました。三好ジオパーク構想では、これらの資源の深い価値や資源同士のつながりを理解しながら、次の世代へとつないでいく活動を続けていきます。

ジオパークとは

ジオパークは、科学的に見て貴重な地球の遺産(地質や地形など)を持ち、生き物や歴史・文化的にも重要な価値のある一定地域のことです。つまり、岩石や地質や地形だけではなく、その上で生まれた歴史や文化なども、ジオ(大地)の資源です。それらすべてがその地域の魅力につながります。

ジオパークとは、これらジオ資源を将来にわたって活用していけるよう保全するとともに、ジオ資源同士のつながりを教育や観光に活かし、さらには地域特有に起きる災害を防ぐことにも役立てる活動を行います。

ユネスコ世界ジオパークと日本ジオパークとがあり、それぞれの審査を受け、認定されることによりメンバーになることができます。

日本ジオパーク 46地域

ユネスコ世界ジオパークにも認定 9地域

北海道 アポイ岳 洞爺湖有珠山 白滝 とかち鹿追 十勝岳 三笠

東北 下北 三陸 八峰白神 男鹿半島・大湯 鳥海山・飛島 ゆざわ

栗駒山麓 磐梯山

関東 浅間山北麓 下仁田 秩父 筑波山地域 銚子 箱根 伊豆大島

中部 伊豆半島 糸魚川 佐渡 苗場山麓 南アルプス(中央構造線エリア)

立山黒部 白山手取川 恐竜渓谷ふくい勝山

近畿・中国 南紀熊野 山陰海岸 隠岐 島根半島・宍道湖中海 萩

Mine秋吉台

四国 室戸 四国西予 土佐清水

九州 島原半島 阿蘇 おおいたの姫島 おおいた豊後大野 霧島

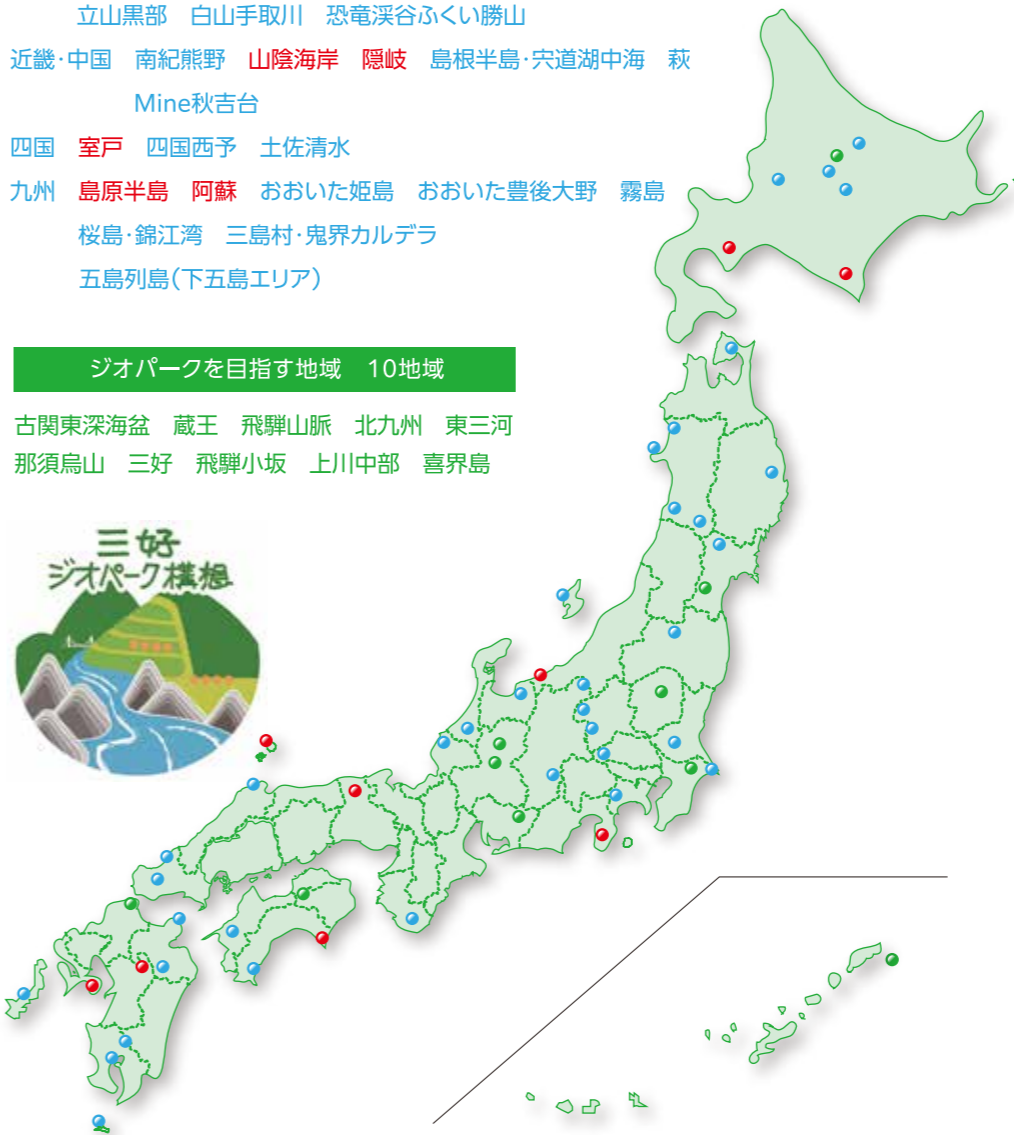
桜島・錦江湾 三島村・鬼界カルデラ

五島列島(下五島エリア)

ジオパークを目指す地域 10地域

古関東深海盆 蔵王 飛騨山脈 北九州 東三河

那須烏山 三好 飛騨小坂 上川中部 喜界島



雄大な大地のストーリー

三好市には、大地と結びついた資源がたくさんあります。ソラと呼ばれる山間部には、急傾斜地での農業など生活文化、祖谷のかずら橋、大歩危峡・小歩危峡、祖谷峡などの景勝地があり、マチと呼ばれる平野部には刻みたびこ産業の歴史や吉野川の水運文化などがあります。

これらの特徴ある文化や自然環境を生み出したのは、過去の大地の変動です。傾斜地集落の土台となる緩やかな山の斜面は、約300万年前から始まった中央構造線の活動によって讃岐山脈が隆起し、地すべりを頻繁に繰り返したことによりつくられたものです。土地の形を改変せずにソバなどの雑穀を栽培する傾斜地農業は、地すべりによってもたらされました。また、大歩危峡・小歩危峡に代表されるような激流と淵が連なる吉野川の景観は、中央構造線の地殻変動が生み出したものです。

そして、今から120万年前、吉野川の急峻な流れが讃岐山脈によってさえぎられ、池田町イタノ付近で東へと大きく流れを変えるようになり、岩盤だった両岸は河原や平野に変わっていきました。その後、洪水などでもたらされた肥沃な土壌で藍作が盛



吉野川が流路変更する池田町イタノ付近



傾斜地集落

んに行われ、収穫された藍は吉野川の水運で出荷され、徳島の一大産業が築かれました。池田町の刻みたびこも吉野川から出荷され、「阿波刻み」の名で全国に知られていきました。讃岐山脈の隆起以降、香川では雨があまり降らなくなり、小麦栽培やうどん食文化が生まれました。

三好市での吉野川の流路変更は、徳島だけでなく、四国の経済や文化に大きな影響を与えました。三好市民が誇れる大地のストーリーだと言えるでしょう。

三好ジオパーク構想が目指すもの

三好市は、大地と人との深いつながりを随所に感じることできる地域であり、他のジオパーク地域にはない魅力を持っていると言えます。三好ジオパーク構想の活動は、平成29年(2017)4月にスタートしました。現在、教育現場においては、「ジオパーク出前授業」として、市内の小中学校で自分たちの住んでいる地域の大地の成り立ちを学ぶ授業を開いています。池田高校では、探究活動の一つとしてジオパークを研究テーマとする「ジオパーク班」もできました。地域の特徴ある地形を知ることが、災害を防ぐことにもつながるため、三好市防災士会によるジオ×災害のワークショップや、小中学校でのジオパーク防災学習も開いています。

観光面では、地元市民ガイドによる「ジオツアー」を行っており、観光ツアーにも組み込まれて好評を得ています。ツアーのガイドの養成講座や、三好市の良さを新たに発見し、人に自慢してもらおう「プチガイド」の養成講座も定期的に開いています。三好ジオパーク構想は、令和6年(2024)の審査を目指して活動を続けていますが、ジオパークに認定されることはゴールではありません。三好市に住む人たちが地域の価値や特徴を理解し、未来へとつないでいくことが目標です。次の世代を担う子どもたちが、三好の大地を誇りに思い、この地で生き抜き、さらに次世代にその良さを引き継いでいけるよう活動を続けていきます。



大歩危・小歩危峡

みよしジオガイドツアー

景色の裏側を探る

三好市観光協会では、特徴ある景色の裏側にある人々の暮らしから大地の特徴まで丸ごと楽しめる「ジオツアー」を行っています。「阿波池田の町並みぶらりコース」と「大歩危小歩危コース」の常設2コースのほか、ルート、内容等、ご希望に応じて対応しており、地元の市民によるジオガイドが案内しています。



みよしジオガイド
左から、下川純代さん、石井和美さん、山西敏広さん

下川さん

大地が動いたことで、三好市の歴史や文化、生活が生まれたことを知ると面白くてたまらないですね。知らない人と出会うワクワク感、うまく説明できるかどうかのドキドキ感、新しいコースを考えた時の達成感があるので、楽しくガイドを続けています。

石井さん

自分で歩くだけでは分からない大地の成り立ちや歴史や文化とのつながりが分かると、喜んでもらっています。素人が素人なりに理解して、かみくだいて説明しているので分かりやすいのだと思います。これからも知ることの面白さを伝えていきたいです。

山西さん

三好市でも山側に行くほど、自分たちが住む場所へのコンプレックスを持っている子どもたちが多そうですね。ジオガイドを通して、子どもたちにふるさとの素晴らしさを伝え、自分たちの地域に誇りを持ってもらえたらと願っています。



三好ジオパーク構想エリアの見どころ

エリア内には、特徴ある地質、地形がある場所や大地とのつながりが感じられる場所が90か所近くあります。数ある中から3か所をご紹介します。

三村用水

三野町は、讃岐山脈からのレキや砂がたまってできた扇状地で、吉野川の堆積物によってつくられた平野があります。水はけの良さが特徴で、昔から水の確保に悩まされてきました。そのため、三村用水が江戸時代に整備され、現在も活用されています。



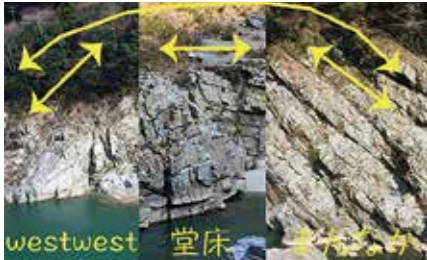
池田断層 断層崖

上野ヶ丘とマチ・サラダの間には高さ20~30メートルの崖があります。中央構造線の活動(地震)が何度も起きたためできた断層崖で、南側の大地は結晶片岩、北側の大地は砂岩や泥岩から成っています。崖の上には学校が建ち並び、子どもたちが断層崖をまたいで登下校の様子が見られます。



大歩危・小歩危の背斜構造

下敷きを曲げると下敷きはたわみます。大歩危峡では、地層がまるで下敷きを曲げたように大きく凸にたわんでいる様子が見られます。地層のたわみは非常に大きいため、遊覧船乗り場(大歩危峡まんなか)、堂床、westwestの3つのポイントで見ることができます。



現在でもアクティブな活動をする中央構造線



剣山山頂の構造土

とこじお

ジオパーク構想の情報発信室

遊覧船が発着する「大歩危峡まんなか」の地下1階にある、三好ジオパーク構想エリアの旅の始まりをイメージした情報発信室。パネルや標本などを展示し、三好市の大地の特徴やその成り立ち、そこから生まれた生態系や歴史・文化・産業などを紐解いていきます。





人形劇



リトミック



リフレッシュ親子ヨガ



親子体操

三好市で子育て中の親子が利用し、子育ての仲間をつくり、子どもたち同士がふれあい、発育や育児の話などをしながら楽しく集う場所です。また、「子育て世代包括支援センター」と連携し、子育てに対する不安や悩みの相談、子育てに関する情報も提供しています。

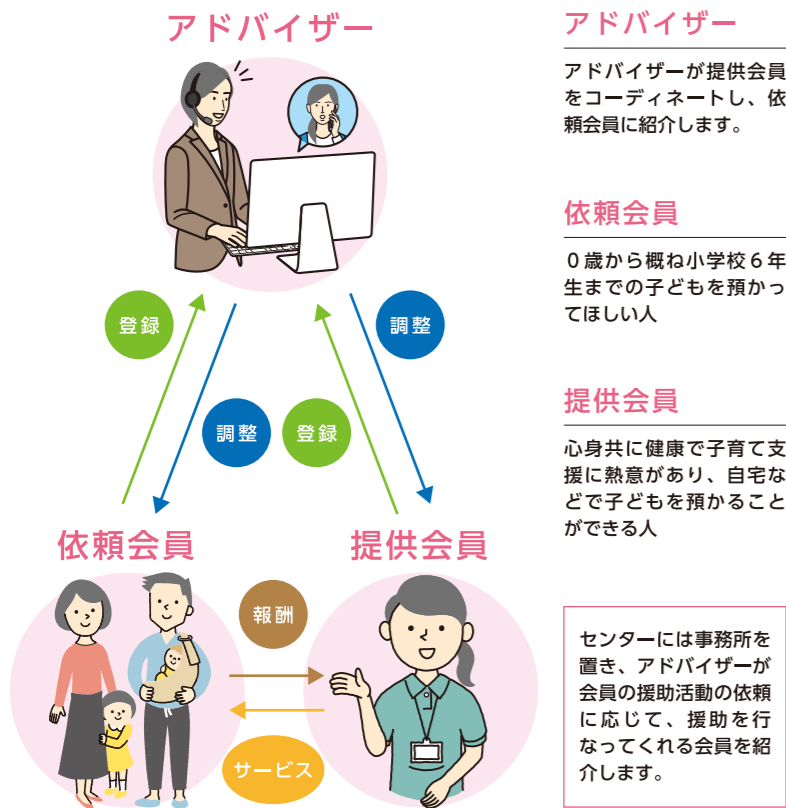
親が元気でいないと、子どもも幸せにはなれません。この場所での交流を通して、親御さんの心の健康を保つことも目的です。体操やヨガ、リトミック、人形劇やミュージック・ケアなどを定期的に行い楽しんでいます。お子さんのお誕生会も開催しているので、ぜひご参加ください。

三好市子育て支援センター事業 子どもも親も幸せになれる場所づくり



「生まれてよかった 住んでよかった 住み続けたい三好市」と思ってもらえるよう、次代の子どもたちにとっても、親御さんにとっても、より良い環境づくりに取り組んでいます。

ファミリー・サポート・センターのしくみ



「援助を受けた人」と「援助を行いたい人」がお互いに助け合う会員組織です。子育て中の家族が安心して、子育てと仕事の両立ができるような相互援助活動を行うもので、まず依頼会員と提供会員に登録していただきます。登録するとアドバイザーが提供会員をコーディネート

し、依頼会員に紹介します。ペアが成立すると、保育所、幼稚園、小学校等への子どもの送迎や開始や終了後の預かり、行事等で外出する時の預かりなどをしていただきます。特別な資格はいりませんが、センターが開催する講習会を受講する必要があります。

みよしファミリー・サポート・センター 助けあって、子育てと仕事を両立させる

三好市では、子どもを安心して産み、育てることができる環境を築いていくため、令和2年(2020)から「第2期三好市子ども子育て支援事業計画」を策定し、地域の子育て家庭を支援する仕組みをよりいっそう充実させています。

結婚から妊娠・出産・育児と切れ目のない支援を行い、仕事と子育てを両立させる環境づくりや、地域において子育て家庭を支援する環境づくりなどを進めています。また、子育て中の親子の交流の場や、地域住民と子どもたちと交流する機会を設け、地域全体で子育て世帯を支える機運を高めています。

教育機関、家庭、地域、企業、行政などが連携し、子どもたちが、いきいきと健全に育っていく三好市を作ることが私たちの願いです。

親子でリラックスできるまち



く絵本を通して親子のふれあいをく

ブックスタート事業

赤ちゃんとお母さんが、絵本を介してゆっくりとふれあうひと時を持つるよう、三好市に生まれたすべての赤ちゃんに絵本を贈っています。読み聞かせボランティアの方が、

「NPOブックスタート」の推薦書から2冊を選び、0歳児の赤ちゃんに乳児股関節脱臼検診会場で、絵本の読み聞かせを楽しんでいただくからプレゼントしています。

く初めて触れるおもちゃは三好の木でできたものにく

ウッドスタート事業



三好市は、平成31年(2019)に東京おもちゃ美術館と「ウッドスタート宣言」を調印しました。三好市は90%が森林で、生活の中に木が当たり前のようがあります。地域材を有効活用して子育て環境を整備することにより、子どもたちに木に親しみを持ってもらい、木の大切さや循環の仕組みなどを知ってもらうことが目標です。この宣言を受けて、「生まれて初めて触れるおもちゃは三好市の木でできたものに」をコンセプトに誕生祝い品を開発。三好市で生まれた赤ちゃんに、祖谷のかざら橋とラフティングをイメージした木琴風おもちゃ「こだまくさずらく」を、年輪をデザインしたオリジナルのトートバッグに入れてプレゼントしています。

また、国内外から数百種類の木のおもちゃを集め、子どもたちが実際にふれて遊ぶことができる「木育キャラバン」も毎年開いています。コロナで数年間休止していましたが、令和4年(2022)に再開し、「フォレストアドベンチャー」の協力によるモバイルコースも登場しました。三好市では、木育の専門家を育てる「木育インストラクター養成講座」も開いています。

く地域につくられた

みよし学校支援ボランティア

地域住民による学校の応援団く

地域の多くの大人たちが子どもたちの教育活動に関わり、地域の教育力を高めるとともに、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう地域ぐるみで支援するボランティアを募っています。各中学校区に学校とボランティアをつなぐコーディネーターがお

り、学校のニーズに応じた支援活動を進めています。その内容は、登下校の安全活動から環境の整備、総合学習の支援までさまざまです。伝統文化や伝統行事の継承なども行っており、世代を越えたコミュニケーションの輪が広がっています。



学習支援(総合学習:生け花教室)



学習支援(図工科:電動のこぎり補助)



学校行事(茶道教室)



環境整備(防護ネット張り)



学校行事(昔の遊び指導)



環境整備(校庭の除草)



ハチミツ
「アソビモッテ」。



ヤツマタ製品の
パッケージ



池田高校100周年記念ロゴ
横山さんがデザインした母校池田高校の
100周年記念ロゴ。

自分たちのように豊かな自然の中で子どもを育てたいと思い、長男が1歳になった時に三好市にUターンしました。デザインの仕事もオンラインのネットワークでつながる時代で、都会と田舎の距離感はいささかなりました。都市部には田舎にそこがれを持っている人が多く、私の新しい生活に関心を持ってくれ、かえって仕事がいややすくなったところもありますね。

けれども20年ぶりに帰って来たので、ほぼゼロからのスタートです。カメラマンの友人と一緒に市内の集落を回り、いろんな人に取材をして、人とのつながりを新しく作っていきました。都会ではクライアントの要望に応える仕事为主でしたが、地元仲間たちと商品を企画し、販促やパッケージのデザインを考えていくことも始めています。東

祖谷の雑穀ヤツマタや池田町シンヤマのハチミツなど、地元で作られ、地元で食べられてきたどこにもない美味しいものを、全国に向けてどんどんアピールしていきたいと思っています。

都会にならうのではなく、ここにあるものを観察し、それをデザイン形で表現していけば、都会の人たちも田舎は面白いと思ってくれるはず。人口が減少し、インフラの維持が懸念されるなど、田舎にはデメリットもあります。しかし、大人たちが楽しんで作り、楽しんで販売しているのを見ると、子どもたちが地元で受け継がれてきた伝統やデザインの仕事に関心を持ってくれると思います。三好市から田舎の魅力を発信し、子どもたちに夢を与えることができたならと願っています。

大阪を拠点に、ロゴやパッケージ、広告や装幀など、多彩な分野でグラフィックデザイナーとして活躍してきた横山さんは、子どもができたことをきっかけに家族で三好市にUターン。デザインの仕事を続けながら、仲間を増やし、活動の幅を生き生きと広げています。

田舎の面白さを発信したい

「デザインスタジオ KUMA」代表 横山道雄さん



デザイナー横山道雄さんご一家。左から道雄さん、長男の望一ちゃん、長女の麦ちゃん、妻の恵さん。奥さんも三好市出身で、保育士を勤めています。

横山さんの仕事から



地域を元気にしていくためには、「しごと」をつくり、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む、経済の好循環を拡大していく必要があります。三好市では、空き家、空き店舗、廃校などを有効に活用しつつ、サテライトオフィスの誘致をはじめ、観光の振興や商店街の振興施策と雇用施策を一体的に推進していきます。

自然環境や伝統文化に恵まれた三好市固有の資源を活用した観光振興により「交流人口」の拡大を図り、その中からリーダーなど、三好市ファンである「関係人口」へとつなげ、さらには三好市へとUターンする「定住人口」へとつなげるのが目標です。ここでは、都会や周辺都市から三好市へとUターンされた人たちに、三好市で仕事をするメリットと暮らし方について語っていただきました。

三好で働く

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼ぶ

サテライトオフィス

三好市の自然豊かな環境で、
クリエイティブな感性を磨くサテライトオフィス。

コロナ禍の影響もあって仕事のスタイルが変わり、都市部に拠点を置きつつ、地方にサテライトオフィスをつくる企業が増えてきました。通勤のための移動時間を減らすことができ、地域の活性化や地方人材を確保できるなどのメリットが期待されています。

三好市ではサテライトオフィス誘致のためにさまざまな活動を行って

おり、専用の施設やお試し施設がいくつかあります。その代表的なものが、明治時代中期に創業した旧政海旅館を改装した池田町マチの「三好ランド」です。オフィスとしてだけでなく、地域との交流、自然に恵まれた環境での研修などにも活用されています。三好市にイターンし、サテライトオフィスで働く方たちにお話を伺いました。



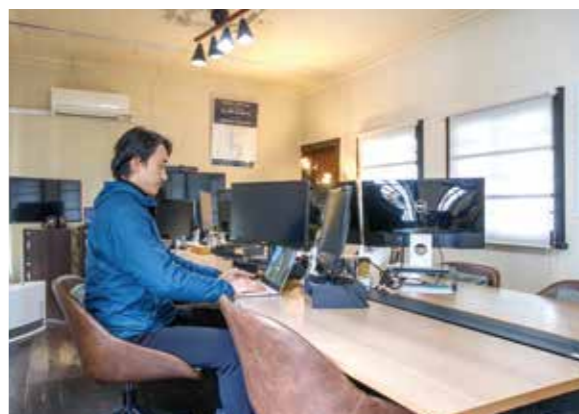
三好ランド

明治20年(1887)年に創業、昭和天皇や司馬遼太郎氏が泊まれたことで知られる政海旅館が、研修スペースなどを備えたサテライトオフィスに生まれ変わりました。隣には、喫茶室や多目的スペースを持つ新館「政海」もあります。



株式会社 ジェニオ

神戸市に本社があり、ホームページやスマホアプリの制作、業務システムやサーバの構築など、幅広く手掛けるIT企業。自然豊かな環境から、柔軟でクリエイティブな発想が生まれることを願い、三好市へ。オフィスでは、ミャンマーなど、海外から来られた方も働いています。



株式会社 ビヨンド

大阪市に本社があり、サーバの構築・運用、サーバサイド開発などIT業界を支える事業を行っています。「24時間365日」の運用を行うため、時差のあるカナダにも支社があります。本社と支社はリアルタイムでつながり、全国からの受注にスピーディに対応しています。

知らない場所で新しい仕事に挑戦。
着実にステップアップできています。

京都生まれの京都市育ちで、IT企業に転職しようとした時も、やはり関東か関西だろうなと思っていましたが、たまたま三好市のオフィスの求人票を見つけたのです。知らない場所です。新しい仕事に挑戦するのも面白いと思いき、三好市にやって来ました。クラウドサーバの構築が主な仕事です。構築後のスペックアップが欠かせないですが、日々の仕事が学びになり、確実に成長できていることが実感

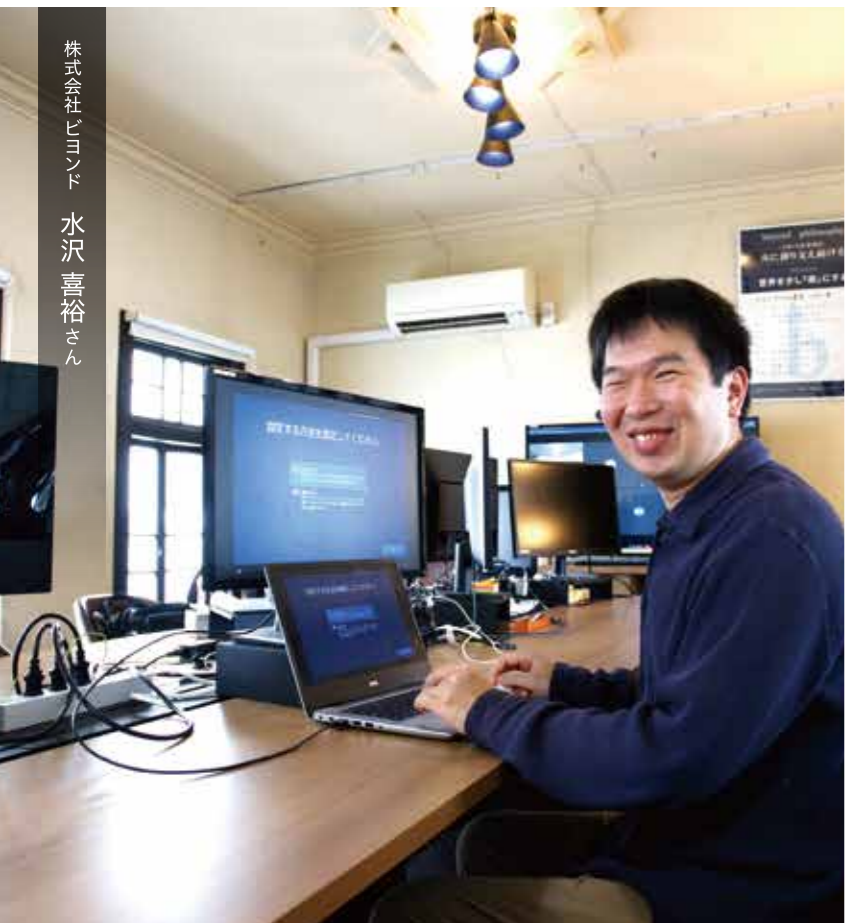
できています。

オフィス近くのアパートに住んでおり、通勤中に見える険しい山が連なる風景は迫力あると思います。スパーやドラッグストアも歩いて行ける場所にあり、暮らしに不自由するとはありません。何より、人と人があたたかく接する文化があるのが良いですね。余裕ができたならラフティングにも挑戦したいと思っています。

地域の人材教育に協力し、
eスポーツの普及にも取り組んでいます。

吉野川市の出身で、大阪から帰って仕事を探している時に、三好市のサテライトオフィスのポータルサイトで当社のことを知り、求人に応募しました。三好市は人がやさしく、すぐに受けて入れてもらえました。四国の真ん中に位置して、アクセスも意外によく、四国のどこにでも1時間くらいで行けるのも良いですね。

ホームページの制作やシステム開発のほか、地域の人材教育も担当しています。三好市の依頼で中学や高校に起業家を派遣して生徒たちへ起業意識を芽生えさせる講座や、小学生から高校生までを対象にしたプログラミングスクールなどを運営しています。eスポーツの普及にも取り組んでいます。三好市が「eスポーツイベントのメッカになり、「休みの日には三好に行こう!」を子どもたちの合言葉にできたら」と願っています。



株式会社 ビヨンド 水沢 喜裕さん



株式会社 ジェニオ 梯 理人さん



阿波池田うだつの家・阿波池田たばこ資料館

たばこの製造で栄えた真鍋家の旧宅で、刻みたばこの製造工程で使われた機具類を数多く展示しています。建物の外壁にある「うだつ」は富の象徴とされています。

伝説の名将、葛文也監督のもと、昭和49年（1974）年にわずか11人のメンバーで春の甲子園に出場した池田高校は決勝まで駒を進め、「さわやかイレブン」と呼ばれる旋風を巻き起こしました。昭和57年（1982）、翌58年（1983）年には強打の「やまびこ打線」で夏春連覇を成し遂げるなど、春2回、夏1回の全国制覇を果たしています。



1982年、夏の甲子園で初優勝。

甲子園で旋風を巻き起こした池田高校

江戸時代から三好市の山間部では、「阿波葉」と呼ばれる葉たばこの耕作が盛んに行われていました。阿波葉は水運・陸運に恵まれた池田や辻に運ばれ、専門の手刻み工場が次々と建てられました。江戸時代後期に葉たばこをかんなどで刻む機械が発明されると量産が可能となり、「阿波刻み」という名

称で全国に流通し、幕末から明治にかけて三好市は県下一の工業地帯に発展しました。その後、たばこ製造業の官営化に伴う莫大な補償金は一部が町屋の意匠などの建設に充てられ、繁栄を今に伝える池田や辻のうだつの町並みが生まれました。

たばこ産業で栄えた池田と辻



傾斜地の農具などを展示（東祖谷歴史民俗資料館）



復元された農家の一室（井川ふるさと交流センター民俗資料館）



井川ふるさと交流センター民俗資料館
農具やたばこ作りに関する資料、井川出身の作家、内田彌八、画家、山下菊二などの資料や作品を展示しています。

高低差400メートル近い斜面に人が暮らす東祖谷の落合集落など、三好市には傾斜地が多く存在します。稲作には向かないため、ソバやアワ、ヤツマタなどの雑穀が栽培され、傾斜地に適した独特な農具が考案されました。三好市を含むにし阿波地域で育まれてきた農業と食文化は、

平成30年（2018）年に「にし阿波の傾斜地農耕システム」として、「世界農業遺産」に認定されました。

傾斜地に育まれてきた農業と暮らし



阿佐家住宅

平国盛の子孫とされ、祖谷で代々特別な役職についてきた阿佐家の屋敷。主屋は幕末の建造とされ、県内でも珍しい建築様式から徳島県の有形文化財に指定されています。



鉦杉

平国盛が平家の再興を祈念して植えたと言われる巨大な杉。樹齢800年を超えているとされ、県の天然記念物に指定されています。



東祖谷歴史民俗資料館

平家一族ゆかりの土地を写真パネルで紹介するほか、傾斜地での農業を伝える独特な農具などを展示しています。

祖谷の平家伝説

祖谷には、屋島の合戦に敗れた平国盛（教経）一行が、幼い安徳天皇をお守りして逃れてきたという「平家の落人伝説」が語り伝えられています。屋島から落ち延びた一行は、井川町内谷をさかのぼり、西祖谷の小祖谷をへて落合峠を越え、東祖谷の大枝集落に辿り着き、京上に御所

を築いたとされます。その伝説を裏づけるかのように、祖谷には平家ゆかりの史跡が数多く点在しています。祖谷は民俗文化の宝庫でもあります。秘境と呼ばれますが、山の幸や雑穀に恵まれ、豊かな伝統を育んできたことが分かります。

平家の落人伝説で知られ、最初の天下人、三好長慶を生んだともいわれる三好市。幕末から明治にかけては、たばこづくりで繁栄し、全国に「阿波刻み」の名を広げました。

千年のあゆみ 三好市の歴史



平家の赤旗
(井川ふるさと交流センター民俗資料館)

三好市のお祭り・イベント

三好市では、四季折々に古来の祭りや華やかなイベントが行われ、伝統を守る心や郷土愛が育まれています。



四国酒まつり

“四国の灘”と称される隠れた酒どころ、三好市に四国各地の銘酒が集まります。新酒を中心とした試飲会が行われるほか、市内の酒蔵が開放され蔵見学ができます。



山城鉦踊り

山城町に伝わるお盆の行事で、徳島県の無形民俗文化財に指定されています。集落の安泰祈願と御仏の供養のため、華やかな花笠をかぶった踊り手が、鉦と太鼓に合わせて踊ります。



三好市のお祭り・イベント



いけだ阿波踊り

徳島県内の阿波踊りの最後を締めくくり、8月13日の前夜祭と14～16日の3日間、約30連の踊り子たちが乱舞します。客と踊り子が近く、臨場感や一体感が味わえるのが特徴です。



池田冬のオブジェ

三好市の冬の到来を告げる風物詩。池田へそっ子公園を彩る未来への希望の光「夢来人イルミネーション」を中心に、約10万個ものイルミネーションが三好市内を光で染め上げます。



箸蔵寺大祭

標高633mの箸蔵山山頂付近にある箸蔵寺で、山桜が咲く4月と紅葉の11月に、「大般若転読」の大法要が執り行われます。法要終了後には、餅まきがあります。



やましろ狸まつり

山城町の妖怪たぬき伝説をモチーフにした祭り。たぬき駅長のいるぼんぼこ阿波川川口駅近くの川口商店街周辺で開かれ、「おたぬきパレード」やたぬきにまつわる展示、ステージイベントなどが行われます。



西祖谷の神代踊り

菅原道真が始めたという伝承のある古式ゆかしい雨乞いの舞。全国で伝承されてきた民俗芸能「風流踊」の一つとして、ユネスコの無形文化遺産に登録されました。



イベントスケジュール

- 4月 ◆塩塚高原野焼き(山城)
- ◆箸蔵寺春季大祭(池田)
- 5月 ◆剣山山開き(東祖谷)
- ◆西祖谷あめご釣り大会(西祖谷)
- ◆黒沢大師まつり(池田)
- ◆密蔵寺不動の火祭り(池田)
- ◆安楽地藏まつり(池田)
- ◆大歩危リバーフェスティバル(山城)
- 6月 ◆野鹿池しゃくなげ祭り(山城)
- ◆剣山山頂大祭(東祖谷)
- 7月 ◆丸山祇園祭り(池田)
- ◆西祖谷の神代踊り(西祖谷)
- ◆山城夏まつり(山城)
- 8月 ◆箸蔵寺菩提供養(池田)
- ◆いけだ阿波踊り(池田)
- ◆三野フェスタ(三野)
- ◆祖谷口の夏フェスティバル(池田)
- ◆大野ふるさと祭り(山城)
- ◆奥祖谷夏まつり(東祖谷)
- ◆山城鉦おどり(山城)
- ◆栗枝渡八幡神社の秋祭り(東祖谷)
- ◆池田ジャズ横丁・池田まちなか音楽祭(池田)
- 9月 ◆古宮神社古宮祭り(西祖谷)
- ◆わくわくフェスタ(池田)
- 10月 ◆JAZZフェスタ(東祖谷)
- ◆剣山紅葉まつり(東祖谷)
- ◆粉引き節日本大会(東祖谷)
- ◆祖谷口の秋フェスティバル(山城)
- ◆徳善神代踊り(西祖谷)
- ◆徳善禊からくり(西祖谷)
- ◆天空の郷かかし祭り(東祖谷)
- ◆祖谷文化伝承まつり(西祖谷)
- ◆川崎獅子太鼓(池田)
- ◆秋祭り(各神社)
- ◆黒沢湿原まつり(池田)
- ◆三好市民文化祭(池田)
- ◆祖谷源内の里ふるさとまつり(西祖谷)
- ◆襖からくり公演(西祖谷)
- ◆ONSEN・ガストロノミーウォーキング(池田・西祖谷)
- 11月 ◆井内三社宮大祭(井川)
- ◆なでしこまつり(井川)
- ◆伊予川芋炊き会(山城)
- ◆三好長慶武者行列まつり(三野)
- ◆井川文化まつり(井川)
- ◆箸蔵寺秋季大祭(池田)
- ◆やましろ狸まつり(山城)
- ◆妖怪まつり(山城)
- ◆山城文化まつり
- ◆池田文化まつり
- ◆お天王はん市(三野)
- 12月 ◆大歩危国見山スカイレース(西祖谷)
- ◆池田冬のオブジェ(池田)
- 1月 ◆雲辺寺のお正月(池田)
- ◆池田えびす祭り(池田)
- ◆雲合戦四国大会(東祖谷)
- ◆三野文化まつり(三野)
- 2月 ◆四国酒まつり(井川・池田)
- ◆やましろ狸ま里山マラニック(山城)
- 3月 ◆諏訪公園桜まつり(池田)



にし阿波の傾斜地農耕システムが世界農業遺産に認定(2018年3月)

にし阿波地区(三好市、美馬市、つるぎ町、東みよし町)の自然と調和した傾斜地農耕システムが日本で11地域目、中四国で初めての世界農業遺産に認定され、5月には記念シンポジウムが池田総合体育館で開催されました。

国内初のラフティング世界選手権が開催(2017年10月)

世界22か国の代表500人余りが、世界屈指の激流とされる吉野川に挑み、期間中約2万人が観戦に訪れました。地元の期待に応え、三好市で活動する女子チーム「ザ・リバーフェイス」が見事総合優勝を果たしました。



「後世に遺したい怪遺産」に山城町が認定(2008年5月)

数多くの妖怪伝説の残る山城町が、漫画家水木しげる氏が会長を務める世界妖怪協会の「後世に遺したい怪遺産」に認定されました。これを記念して川口商店街などで妖怪パレードが行われ、大勢の見物客が詰めかけました。



4町2村が合併し、「三好市」が誕生(2006年6月)

新しい市の門出を祝う開庁式が行われ、本庁舎に掲示された三好市役所銘板が除幕されると、来賓や関係者など約150名から大きな拍手が起こりました。

三好市誕生後のあゆみ



アジア初のウェイクボード世界選手権大会が開催(2018年8月)

世界34か国から147人が出場し、イケダ湖を中心に熱い戦いを繰り広げました。地元の小学生チーム「イケダコイレブン」も奮闘。オープニング&クロージングセレモニーも大いに盛り上がりました。

- | | | |
|------|-----|---|
| 2022 | 11月 | ◆「西祖谷の神代踊」がユネスコ無形文化遺産に登録 |
| 2022 | 8月 | ◆旧三野町役場庁舎で三野図書館がオープン |
| 2022 | 5月 | ◆徳島県立池田高等学校が創立100周年を迎える |
| 2021 | 12月 | ◆三好市ゼロカーボンシティを宣言 |
| 2020 | 8月 | ◆第3代三好市長に高井美穂氏が就任 |
| 2020 | 4月 | ◆四国の聖火リレーが三好市からスタート |
| 2020 | 12月 | ◆新猪ノ鼻トンネルを含む猪ノ鼻道路が開通 |
| 2019 | 12月 | ◆徳善家住宅が国の重要文化財に指定 |
| 2019 | 10月 | ◆全国花火師競技大会に「し阿波の花火」が開催 |
| 2018 | 8月 | ◆アジア初のウェイクボード世界選手権大会が開催 |
| 2018 | 6月 | ◆地域交流拠点施設「真鍋屋」オープン |
| 2018 | 3月 | ◆にし阿波の傾斜地農耕システムが世界農業遺産に認定 |
| 2017 | 10月 | ◆国内初のラフティング世界選手権が開催 |
| 2017 | 4月 | ◆観光列車「四国まんなか千年ものがたり」運行開始 |
| 2017 | 2月 | ◆阿波遍路道雲辺寺道が国の史跡に指定 |
| 2016 | 9月 | ◆アジアウェイクボードチャンピオンシップin三好が開催 |
| 2016 | 3月 | ◆三好市制10周年記念式典を挙げる |
| 2015 | 6月 | ◆大歩危小歩危が国の名勝に指定 |
| 2015 | 5月 | ◆池田消防署新庁舎が完成 |
| 2014 | 3月 | ◆大歩危小歩危が国の天然記念物(地質鉱物)に指定 |
| 2013 | 7月 | ◆第2代三好市長に黒川征二氏が就任 |
| 2012 | 3月 | ◆市立三野病院落成 |
| 2012 | 3月 | ◆北山たけしさんに三好市観光大使を委嘱 |
| 2010 | 4月 | ◆道の駅大歩危に妖怪屋敷がオープン |
| 2010 | 1月 | ◆旧三野町役場庁舎が国の登録有形文化財に登録 |
| 2009 | 2月 | ◆ケーブルテレビが市全域でサービス開始 |
| 2009 | 10月 | ◆合併2周年記念 大相撲秋巡業三好場所が開催 |
| 2008 | 8月 | ◆第1回篤文也杯選抜野球大会開催 |
| 2008 | 5月 | ◆「後世に遺したい怪遺産」に山城町が認定 |
| 2007 | 12月 | ◆三好市の花・木・鳥を指定 |
| 2007 | 8月 | ◆タクイラ市(アメリカ・ワシントン州)、ザ・ダルズ市(アメリカ・オレゴン州)と姉妹都市協定締結 |
| 2006 | 4月 | ◆初代三好市長に俵徹太郎氏が就任 |
| 2006 | 3月 | ◆三野町、池田町、山城町、井川町、東祖谷山村、西祖谷山村の合併により三好市が誕生 |



「西祖谷の神代踊」がユネスコ無形文化遺産に登録(2022年11月)

千年以上の歴史を持つとされ、国の重要無形民俗文化財にも指定されている「西祖谷の神代踊」が「風流踊」の一つとして、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。徳島県の国の重要無形民俗文化財に登録されるのは今回が初めてです。



徳島県立池田高等学校、創立100周年記念式典を開催(2022年11月)

100年間で2万5千人余名の卒業生を送り出した池田高校。記念式典の後には、プロ野球などで活躍した野球部OBによる記念講演「池高野球部レジェンドたちの集い-監督・池高を語る」も開催されました。



四国の聖火リレーが三好市からスタート(2021年4月)

東京オリンピックの聖火が三好市に到着し、四国での出発式が箸蔵山ロープウェイ登山口駅で行われました。栄えある第一走者は、ウェイクボード世界選手権大会にも出場した地元の千葉結那さんが務めました。

全国花火師競技大会「にし阿波の花火」が開催(2019年10月)

中四国初の全国花火師競技大会が三野健康防災公園で開催されました。約2万発の花火が打ち上げられ、約5万人の観客がその美しさに釘付けになりました。





令和2年(2020)12月13日、約18年の歳月をかけて事業が進められてきた国道32号線猪ノ鼻道路が開通しました。猪ノ鼻道路は三好市と香川県三豊市を結ぶ8.4キロの道路で、箸蔵第1・第2トンネル、西山トンネル、新猪ノ鼻トンネルの4つのトンネルが途中にあります。猪ノ鼻峠を通る旧ルートより距離が4.2キロ縮まり、時間も大幅に短縮できるようになりました。旧国道の課題だった急こう配や急カーブ、積雪や凍結による通行規制などが解消され、利便性や安全性も大幅に向上しました。猪ノ鼻道路は救急搬送ルートとして活用できるなど、広域医療体制の強化が見込まれるほか、広域的な観光周遊を促進する道路として大きな効果が期待されます。

猪ノ鼻道路が開通



リモートワーク対応住宅

三好市では市外からの移住を考えている方を対象に、三好市での暮らしを具体的にイメージしてもらうため、1か月から貸出し可能な「お試し暮らし住宅」を整備しています。お試し暮らし住宅での滞在中、ご希望の方には、市内の空き家の紹介や地域の方、先輩移住者などとの交流を通じて、「三好暮らし」の魅力をお伝えします。また、住宅とシェアオフィスの機能を併せ持ち、ワークেশションにも利用が可能な「リモートワーク対応住宅」も用意しています。WEB会議に対応できる個別会議室やオープンテラス、共有キッチンのほか、家電・家具も備わっており、お試し住宅としても活用できます。原則1か月以上、1年未満の利用期間となっています。

三好市での暮らしと仕事がイメージできる

生活の利便性の確保と交流活動促進のため、身近な住環境整備を進め、誰もが住みやすく、安心して住み続けられるまちづくりを進めています。

定住と交流を育むまち



令和6年(2024)、完成予定の三好市新庁舎を中心に、船井電機跡地やサンライズ跡地に防災拠点や多目的ホールなどをつくり、コンパクトで住みやすいまちとして、池田町中心部の活性化を進めます。

新庁舎と池田町中心部の活性化



みよし広域連合は、三好市及び三好郡東みよし町の1市1町で構成される広域連合で、平成14年(2002)に設立されました。消防本部及び消防署の設置、ごみ及び尿の処理に加え、介護保険に関する業務処理も行っています。

みよし広域連合



お試し暮らし住宅



三好市では、毎月第4水曜日を15分以上継続してスポーツに取り組む「三好チャレンジデー」とし、市内の体育施設のトレーニングルームを無料開放しています。スポーツ習慣のきつかけづくりやスポーツによる地域活性化が目的です。毎年、北海道名寄市、富山県砺波市など、人口規模が似ている自治体と対戦し、今までに13回金メダルを受賞しています。

三好チャレンジデー



健診やドックを受けたたり、健康に関する活動に参加したり、目標を決めて健康づくりに取り組むことなどによってポイントを貯め、賞品が当たる抽選に応募できる事業です。健康寿命を延ばすことを目的としており、ウォーキングや百歳体操など自主的な取り組みを推進しています。

健幸ポイント事業



藤永 裕之 院長

「誠実で信頼される病院となる」という理念のもと、急性期疾患や高齢者医療を中心に、救命救急センター、高度先進関節脊椎センター、脳神経センター、心不全治療におけるチーム医療、フルセットのがん治療など専門的な医療を提供しており、地域の医療をしっかりと行える体制を構築しています。また、地域医療支援病院として、地域の診療所と連携して患者の皆さんに最適な医療を提供し、県西部の医療の中核を担っています。

徳島県立三好病院



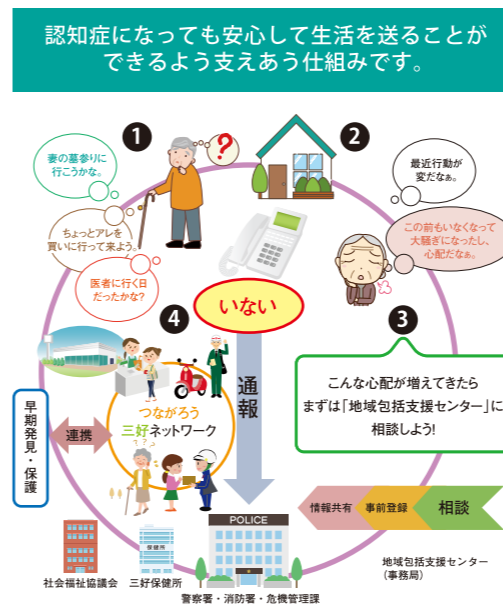
令和3年(2021)12月、市議会において三好市「ゼロカーボンシティ」宣言をしました。今後、国際社会の一員として、脱炭素社会の構築、2050年までのCO₂排出量実質ゼロにより「豊かで生き活き、安心・安全なまち三好」を目指し、持続可能な地域社会の構築に取り組んでいきます。

ゼロカーボンシティ宣言



安全な暮らしを実現するために、地域住民が自主的に組織するのが自主防災組織です。災害の際に自らの命を守る取り組みも、自主防災組織を核として地域の全員が進めることが重要です。三好市の自主防災活動の組織率は高く、避難訓練や消火訓練、救急救命講習などの防災訓練を定期的に行い、万一の場合に備えています。

自主防災活動



三好市では後期高齢者が人口の17%を占め、認知症は他人事ではありません。「つながろう三好ネットワーク」は、認知症等で、外出中に行方不明になるおそれのある方が事前に登録をし、警察等と情報を共有することで、早期の保護につながるためのものです。認知症の方に対し、日常的にはゆるやかに見守りをしてもらい、行方不明になった時には捜査協力をしていただく協力隊員や協力団体を募集しています。

つながろう三好ネットワーク

安心して住み続けられるまちづくり、地域での支え合いによるまちづくりを進めるとともに、環境への負担が少ないまちづくりを推進し、風土と環境に優しい持続可能なまちを目指します。

交通安全・防犯、防災・減災対策を進め、誰もが住みやすく、安心して住み続けられるまちづくりを目指します。また、今後、高齢化が一層進んでいくことから、「健幸運動」を展開し、健康寿命の延伸を

図ります。さらに、誰もがいつまでも健康に、住み慣れた環境で活動ができるように、保健・医療・福祉の連携を図り、地域での支え合いによるまちづくりを推進していきます。

地域を活かし魅力ある煌めくまち

市民が心身ともに健康でお互いが支えあうまちづくりを進めるとともに、三好市の豊かな自然や食材を生かした観光促進を図ります。

誰もが健康で充実した質の高い生活を送れるよう、教育・スポーツ・文化の振興を図ります。また、「そのまんま体験型観光」を基本に、交流の働きを観光業、農林業、商工業と連携することで付加価値の向上を図り、「三好市まるごと観光」につなげていきます。そして、ワーク・ライフ・バランスを推進し、男女が共に支え合いながら個性や能力が発揮でき、市民一人ひとりの人権が尊重されるまちを目指します。

森づくり基本計画「千年のかくれんぼ」の森構想

三好市は、平成30年(2018)年に、森林の文化的、経済的、社会的価値を見据えた「森づくり基本計画」を策定しました。森林は林業だけでなく、水源の涵養や土壌の保全など、多面的な機能を持っています。市民の方々に全国に誇れる三好市の森林についてもっと知ってもらい森づくり人口や関係人口を増やすことを当面の目標に、50年、100年を越えた大きな視野から森づくり、人づくり、まちづくりに取り組んでいきます。



三好市は、第2次三好市観光基本計画を2020年に策定。2021年10月には、基本計画で示された各施策を着実に遂行し、持続可能な観光計画の整備を図っていくことを目的に、官民連携の「三好市観光推進会議」を設立し、日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTSD)を活かした観光基本計画実行プランを策定し、「住んでよし訪れてよし」の

観光地域づくりに取り組んでいます。なかでも、力を入れているのが「MIYOSHIガストロノミー(美食)プロジェクト」です。大桃美代子さんをアンバサダーに迎え、「欧米豪から食を目的に4、5日間滞在してもらえる場所」を目標に、多くの料理人や多彩な分野の専門家が力を合わせて、三好市産の食材を活かした新たな食の魅力創出に取り組んでいます。

観光基本計画

旧三野町役場庁舎

木造2階建て、スレート葺の建物で、現存する昭和初期の洋風木造建築は珍しいため、国の登録有形文化財に登録されています。庁舎としての役目を終えてからも、三野町のシンボルとしてぜひ保存してほしいという地元の方々の要望に応えて、文化庁の補助金により耐震化工事を行いました。令和4年(2022)8月に、1階に図書室、2階に交流スペースを備えた多目的施設として再び活用されています。



ゆるスポーツ

運動が苦手な人でも、気軽に楽しめるスポーツのことで、「世界ゆるスポーツ協会」が普及を進めています。三好市でも地域の特色を持った「ゆるスポーツ」をつくらうと、市民の方々と一緒に知恵を出し合い、令和4年(2022)1月に「ぼんぼこらフティング合戦」やまびこ野球「玉入れヤットサー」の3競技を考案しました。年齢に関係なく楽しんでほしい、本格的なスポーツの入り口になるよう、普及に努めていきます。



ぼんぼこらフティング合戦



玉入れヤットサー

パートナーシップ・ファミリーシップ・宣誓制度

お互いを人生のパートナーとして、日常の生活において協力し合うことを約束した二人(二方あるいは双方がLGBTQ+)が、パートナーシップ関係にあることを宣誓し、市が公的に認める制度です。宣誓すると市営住宅への入居申し込みなどが可能となります。またファミリーシップとして、宣誓書にお二人の未成年の子どもの名前を記載することができます。この制度に法律上の効果はありませんが、宣誓された二人の想いを尊重し、誰もが自分らしく生きることができるまちとなることを期待するものです。



パートナーシップ宣誓書受領カード

住民参画を基本とした協業のまち

外国人を含めたすべての市民が、地域コミュニティの中で生き生きと暮らしていけるよう、市民主体のまちづくりを推進していきます。



市や地域が活力ある状態を維持していくためには、人口減少の進行に伴う担い手不足などの課題を、市に関わるすべての人の知恵と工夫、周辺地域との連携などにより解決していかなければなりません。地域

コミュニティによる支え合いのなかで、すべての人がお互いの役割を理解した、市民が主体となったまちづくりを推進していく必要があります。その対応ができる人材の育成を進めます。

国際交流事業

三好市はアメリカのザ・ダルズ市（オレゴン州）、タクイラ市（ワシントン州）と姉妹都市提携を結んでおり、現在は主にザ・ダルズ市との間で国際交流活動を進めています。コロナ禍以前は、三好市国際交流協会を通じて中高生を中心とした交流親善団の相互訪問を実施してきました。三好市からの親善団は、ザ・ダルズ市で滞在中、市内でのホームステイを体験したり、ダルズ高校での授業に参加するなど多くの方とのコミュニケーションを通じた貴重な

経験をしました。ザ・ダルズ市からの親善団受入時には、多くの市内のご家庭にホストファミリーとしてご協力いただき交流を深めるとともに、市内の中学校において習字や琴の演奏など日本文化を紹介するなどし親睦を図りました。市民が文化の多様性を体感し国際感覚を身に付けることを目的に、ポストコロナにおいて事業を再開し、更なる交流の推進を図ります。

ふるさと創生事業

行政と市民が一体となって活力ある地域づくりを進めるため、個人や団体が自主的、継続的に実施する事業の経費に対して支援を行う制度です。

行政と市民が一体となって活力ある地域づくりを進めるため、個人や団体の魅力を創出する事業が対象となります。今後毎年1回市報やホームページで募集を行い、市民のまちづくりへの参画を促進します。



多文化共生事業

外国籍住民の受入団体としての地域環境の整備及び市民の異文化理解力の向上を目的とする事業です。三好市国際交流協会を通じて市内

在住の外国人との交流会や研修会を実施し、ポストコロナにおける外国籍住民の増加、多国籍化に対応できる地域づくりを進めます。



三好市の概要

市章

「m」の字を剣山・吉野川・祖谷溪谷などの地勢をモチーフに「自然が生き活き、人が輝く交流の郷」と未来を見つめ、協調し、飛躍発展する姿を表現しています。上部の円はその集中力をも表しています。



市の花「さぎそう」

徳島県の文化財に指定されている黒沢湿原の中で、「ときそう」とともに代表的な花として知られています。今後、保護していく必要もあり、また三好市の観光の中心的な役割を担う花であるとして市の花に制定しました。



市の木「もみじ」

もみじは、その美しい紅葉で、三好市の祖谷溪谷、松尾川溪谷、吉野川溪谷の秋を彩る代表的な木であり、観光面でも非常に役立っていることから市の木に制定しました。



三好市の鳥「めじろ」

めじろは、四季を通じて山麓に群れ遊ぶ愛らしい姿と、多彩な鳴き声で古くから愛されてきました。潤いと安らぎのあるまちづくりを目指して市の鳥に制定しました。



姉妹都市

平成19年(2007)8月、三好市はアメリカのザ・ダルズ市(オレゴン州)、タクイラ市(ワシントン州)と姉妹都市提携をし、異文化を体験するホームステイなど、市民同士の交流を通じて、相互理解と信頼を深めています。



アメリカ タクイラ市(ワシントン州)

アメリカ北西部にあるワシントン州の中西部に位置し、近くにはシアトルタコマ国際空港があります。航空産業を中心とした製造業、倉庫業が主産業です。



アメリカ ザ・ダルズ市(オレゴン州)

アメリカ北西部にあるオレゴン州の北部に位置し、市の北側にはコロンビア川が流れています。北アメリカで最も古い居住地の一つです。

議会・行政



副議長 大柿兼司 議長 西内浩真



副市長 近泉裕久 副市長 北川政宏 教育長 竹内明裕



議会(議員側)

三野町、池田町、山城町、井川町、東祖谷山村、西祖谷山村が合併し、三好市が誕生してから、今年で17年を迎えます。合併した4町、2村がそれぞれの個性を輝かせつつ、年月を重ねて確固とした一体感も生まれました。私が市長に就任して1年半たちましたが、地域はもちろん、官民の連携も素晴らしいと感じます。三好市は、住民の方々が互いに相手を生かしながら協力し合う、とても風通しの良いまちだと誇りに思っております。

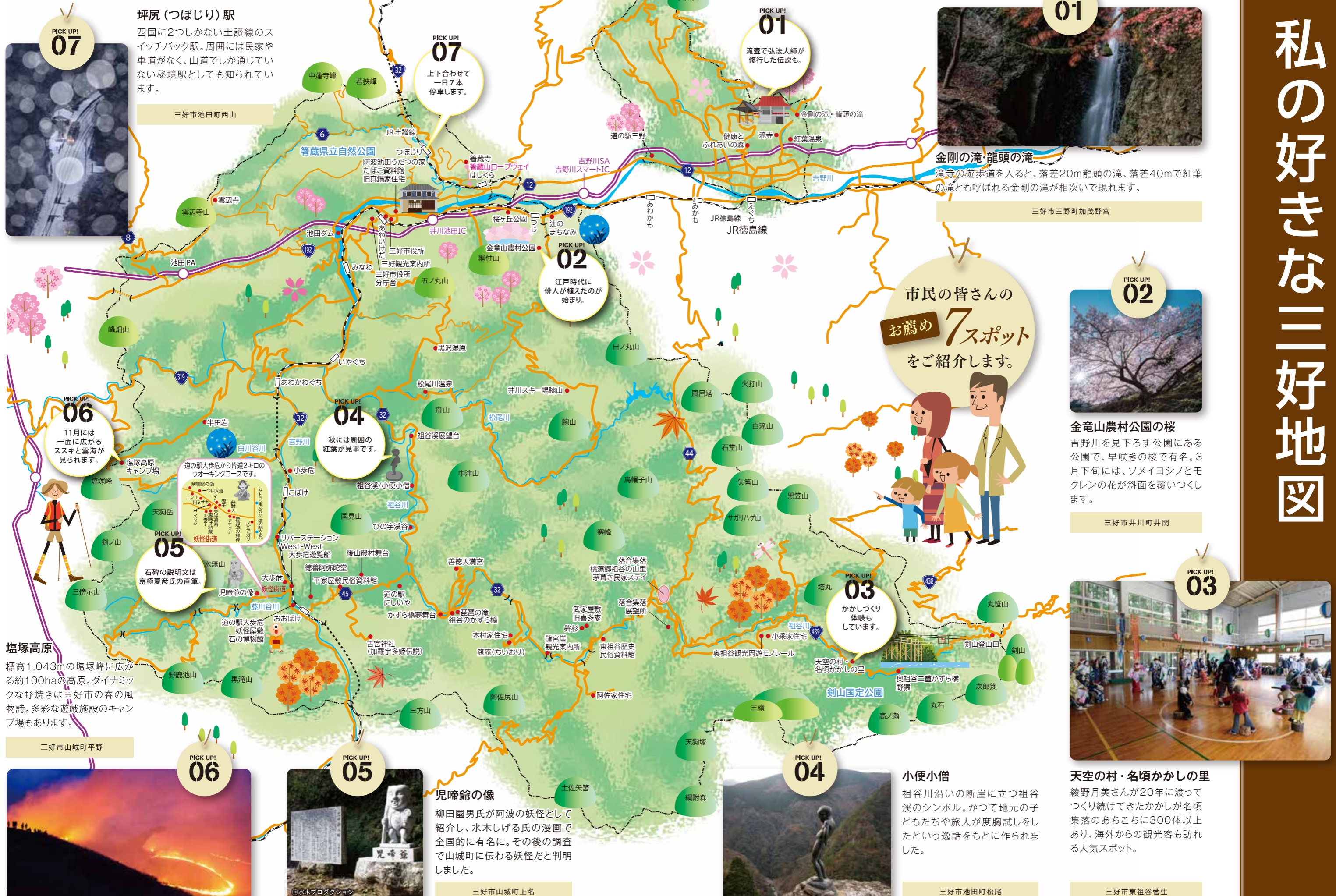
現在、「第2次三好市総合計画後期基本計画」に基づき、池田町中心部の再開発、人口減少の予防、感染症対策などを柱としたまちづくりを進めています。また、市民一人ひとりが大切な存在であり、どんな境遇にある方にもためらいなく手を差し伸べることが市政の役割だと考えております。市民満足度の高い、安心安全で住みやすいまちをつくることができれば、おのずと関係人口や交流人口も増えていくはずです。

この市勢要覧を通して、市民の方々には三好市のまちづくりへの理解を深めていただき、市外の方々には三好市の魅力を知り、足を運んでいただくきっかけとなることを願っております。



三好市長
高井 美穂
Mayor
Miho Takai

私の好きな三好地図



PICK UP!
07

坪尻(つぼじり)駅
四国に2つしかない土讃線のスイッチバック駅。周囲には民家や車道がなく、山道でしか通じていない秘境駅としても知られています。



三好市池田町西山

PICK UP!
07

上下合わせて一日7本停車します。

PICK UP!
01

滝壺で弘法大師が修行した伝説も。



PICK UP!
01

金剛の滝・龍頭の滝
滝壺の遊歩道に入ると、落差20m龍頭の滝、落差40mで紅葉の滝とも呼ばれる金剛の滝が相次いで現れます。

三好市三野町加茂野宮

PICK UP!
02



市民の皆さんの
お薦め7スポット
をご紹介します。

金亀山農村公園の桜
吉野川を見下ろす公園にある公園で、早咲きの桜で有名。3月下旬には、ソメイヨシノとモクレンの花が斜面を覆いつくします。

三好市井川町井関

PICK UP!
06

11月には一面に広がるスキと雲海が見られます。



塩塚高原
標高1,043mの塩塚峰に広がる約100haの高原。ダイナミックな野焼きは三好市の春の風物詩。多彩な遊戯施設のキャンプ場もあります。

三好市山城町平野

PICK UP!
04

秋には周囲の紅葉が見事です。

PICK UP!
03

かかしづくり体験もしています。



天空の村・名頃かかしの里
綾野月美さんが20年に渡って作り続けてきたかかしが名頃集落のあちこちに300体以上あり、海外からの観光客も訪れる人気スポット。

三好市東祖谷菅生

PICK UP!
05

石碑の説明文は石極夏彦氏の直筆。

PICK UP!
05

児啼爺の像
柳田國男氏が阿波の妖怪として紹介し、水木しげる氏の漫画で全国的に有名に。その後の調査で山城町に伝わる妖怪だと判明しました。



三好市山城町上名

PICK UP!
04

小便小僧
祖谷川沿いの断崖に立つ祖谷溪のシンボル。かつて地元の子どもたちや旅人が度胸試しをしたという逸話をもとに作られました。



三好市池田町松尾

PICK UP!
06





三好市

三好市勢要覧 2023

発行 令和5年3月
徳島県三好市
〒778-8501 徳島県三好市池田町シンマチ1500番地2
電話:(0883)72-7600 FAX:(0883)72-7203
<https://www.miyoshi.i-tokushima.jp/>

企画編集 三好市役所総務部秘書人事課
制作 株式会社ぎょうせい